

ヤングケアラー実態調査について

1. 目的

- ・市内におけるヤングケアラーの実態調査（総人数、学齢ごとの割合など）
- ・今後のヤングケアラー支援のために必要な検討材料の把握

2. 対象者及び調査方法

①小、中学生及び②高校生相当の年齢の児童（高校3年生相当年齢の児童は除く）

※①は、学校用端末、②は各自のスマホPCを用いて、あいち電子申請システムでアンケート

3. 調査期間

- 小学校低学年：令和5年9月中旬
- 小学校高学年：令和5年9月中旬～9月下旬
- 中学生：令和5年9月中旬～9月下旬
- 高校生：令和5年9月中旬～9月下旬

4. アンケート項目

- ・学齢に応じ、児童の、生徒の負担とならない項目数とする。
- ・特に小学校低学年では、ヤングケアラーであること自体、ごく少数と考えられ、また言葉の習得過程の年齢であり、理解力や集中力の問題もあるため、必要最小限の調査項目とする。

【必須調査項目】

- ・回答者の学年
- ・ヤングケアラーの実態把握（回答者の主観で、負担と感じている家庭でのお手伝いや家族の世話があるか否か）

【補足調査項目】 ※小学校高学年（4年生）以上を対象

- ・（回答者がヤングケアラーの場合）家族の誰が原因となって、どういった手伝いや世話をしているか
- ・ヤングケアラーを回避するために必要な支援の把握

5. アンケートの周知

- ・市HPや公式SNSでの告知
- ・小中学校の保護者に対しては、書面でアンケート実施を案内する。

■ヤングケアラーについて

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることのこと。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある。